

令和7年12月2日

富良野市議会議長 渋 谷 正 文 様

経済建設委員長 石 上 孝 雄

委員会事務調査報告書

令和7年第2回定例会において、継続調査の許可を得た事件について、下記のとおり結果を報告します。

記

1. 調査案件

調査第3号 道路の維持管理について

2. 調査の経過及び結果

別紙のとおり

=別紙=

調査第3号

道路の維持管理について

経済建設委員会から、令和7年第2回定例会で許可を得た、調査第3号「道路の維持管理について」の調査の経過と結果について報告する。

本委員会では、担当部局に資料の提出と説明を求め、本市が取り組んでいる道路整備や橋梁の維持管理について、現状を把握し、その課題と対策、今後の取組について調査した。

あわせて、市内学校の通学路をはじめ、バリアフリーラインなど、全9箇所の視察を行った。

本市では、令和7年4月1日現在で968路線、672.2kmが市道認定され、そのうち改良済延長が256.1km、舗装済延長が348.4kmとなっており、各整備率は改良率が39.5%、舗装率51.8%となっている。また、「富良野市橋梁長寿命化修繕計画」を策定することで、従来の事後的な修繕対策から予防的な対策へと円滑な政策に転換し、橋梁等の長寿命化並びに修繕等に係る費用の縮減を図りつつ、地域道路網の安全確保に努めている。さらに、高齢者や障がいの方々の安全で安心な歩行の確保を目指し、平成15年に「富良野市交通バリアフリー基本構想」、平成18年に「富良野市交通バリアフリー特定事業計画」を策定し、重点地区内の駅、官公庁施設、病院等を結ぶ路線のバリアフリー整備を進めているが、現在までの進捗率は約60%となっており、さらなる整備が必要である。

加えて、本市には未舗装道路も多く残されており、これらは市民の生活道路として日常に欠かせない役割を果たしている。舗装率51.8%という現状を踏まえると、生活道路の役割を果たしている未舗装道路も多いことから、計画的かつ段階的に舗装整備を進める必要があると考える。

市内にはアンダーパスなど北海道管理の構造物も多く、気候変動による大雨被害が目立つ近年では、冠水対策や排水機能の確保など、国や北海道との連携が欠かせない状況であり、壊れてから修繕するのではなく、予防的な維持管理を行う視点がますます重要になってくる。

こうした取組による効果が期待される中、本委員会では、大きく次の3点に絞って調査を進めてきた。

1点目、通学路の整備についてである。

近年、通学路におけるレンタカーやバス、トラックなどの大型車両の通行が増加しており、標識の視認性向上、路面表示の明確化が必要であると考える。白線や標識による歩車分離など、視覚的に一目で分かる道路設計を推進する必要があ

り、特に老節布の通学において、観光道路としての利用が増えているため、実情に即した対応が課題となっている。また、本年4月からの富良野高等学校の再編に伴い、現富良野高等学校周辺の交通量は大きく変化しており、自転車通行スペースの確保や、交差点箇所の見直しなど通学路としての再点検が必要だと考える。

2点目、橋梁等の維持管理についてである。

本市は、農業や観光の繁忙期において渋滞が発生することが多く、観光バス等の通行路線となっているふらの大橋のような主要橋梁の機能停止は交通の分断を引き起こす可能性があり、市民生活や物流などにも影響を及ぼす可能性がある。修繕の優先順位の検討を行いながら、引き続き「富良野市橋梁長寿命化修繕計画」に沿った維持管理の必要性を感じたところである。また、アンダーパス等の北海道管轄の橋梁においても、北海道道路管理者との協議を行いながら、維持管理を進めていくべきだと考える。

3点目、市民参加型の道路管理についてである。

現在の道路点検においては、地域からの通報等はあるものの、担当部局によるパトロールが主となっている。今後、予想される人手不足に対し、市民が道路情報を写真で通報する仕組みを導入するなど、市民参加型の道路管理を行う取組などの検討が必要であると感じた。こうした市民協働の仕組みは、日常的な道路異常の早期発見と予防的な維持管理につながり、限られた財源や人員の中で効率的な道路管理を可能とするものだと考えられる。

これら委員相互による議論と都市事例調査による先進地の取組事例等の知見を踏まえ、次の4点で意見の一致を見た次第である。

1. 通学路の安全確保対策について

老節布通学路では大型車両のすれ違いの頻発と速度超過車両の通行が散見されていることから、大型車両の通行規制とゾーン30の指定を検討されたい。また、北見市での視察を踏まえ、冬期間においても効果を発揮するアスファルト製ハンプは本市でも有効であると考えられるため、常設型としての設置を検討されたい。

さらに、現富良野高等学校周辺の交差点箇所の見直しと通学路としての再点検に取り組まれたい。

2. 橋梁の長寿命化と計画的な維持管理について

主要橋梁は市民生活や観光、物流を支える重要な基盤であり、機能停止は交通の分断を招く恐れがある。ふらの大橋を含む主要橋梁は「富良野市橋梁長寿命化

修繕計画」に基づき、優先順位を踏まえた計画的な維持管理を推進されたい。また、アンダーパスを含む北海道管理橋梁についても、北海道道路管理者と連携し、地域全体の道路ネットワークの維持に努められたい。

3. 市道の維持管理と市民参加型道路管理について

道路点検は巡回が中心となっているが、将来的な人手不足を見据えると、市民通報を活用した情報収集体制の構築が必要である。スマートフォンによる写真通報など、市民参加型の仕組みを導入し、道路異常の早期発見と予防的な維持管理につなげられたい。また、未舗装道路も生活道路としての役割を担っているため、利用実態に応じた計画的な舗装整備を進められたい。

4. 交通バリアフリー特定事業計画の推進について

高齢者や障がい者、子どもなどすべての市民が安全に移動できる環境整備は重要である。計画されている地区は、病院だけでなく福祉施設も近いため、交通バリアフリー特定事業計画に基づき、歩道の段差解消、視覚障がい者誘導ブロックの整備、公共施設周辺の歩行空間の改善を計画的に進められたい。